

羽咋地区における国際交流・ICT 活用支援

団体名●清水ゼミナール（3,4 年）／代表者名●清水和久（人間科学部こども学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

昨年度に引き続き、羽咋地区での国際交流・ICT 活用支援として、羽咋小学校を対象として実施。

羽咋小学校は、英語教育にも力を入れており、英語の授業の中にフィリピンとの web 会議を実施しているとのことであった。今年度は6年生に対して台湾の高雄市の新甲小学校との国際協働学習の支援を行うこととした。実際に羽咋小学校の6年生の児童に台湾との交流を通して、児童同士の TV 会議で英語を使うことの体験や、交流先の台湾に訪問した大学生がその時の様子を日本の小学生に伝え異文化理解を深め、さらに大学生が台湾で撮影してきた360度動画を VR ゴーグルで視聴することにより、臨場感のある台湾体験をしてもらうことを目的とした。

活動内容

1. 羽咋小学校に対する取り組み

① 6 月 国際教育導入ワークショップ

② 7 月 台湾とのマッチング

以降月1回のペースで羽咋小学校の先生と星稜大学とで情報交換を zoom で実施

③ 11月 第1回台湾との WEB 会議支援

④ 12月 台湾新甲小へ訪問

⑤ 2 月 羽咋小学校での台湾訪問の報告

① 国際教育導入ワークショップ

対象児童：羽咋小学校6年2クラス60人。

世界に興味を持ってもらうために「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを清水ゼミ3年生が外国の人物になりきって実施した。小学生が世界の住人になって、世界の人種の分布や、識字率、話す言葉、経済的な豊かさなど身を持って体験するものである。このワークショップによって世界は世界の実情を知り、世界の30%以上の人々が英語を話していることで、その必要性も身を持って体験することができる。このワークショップ後、世界のことを知る必要性を理解し、外国の同世代との交流に興味を持たせることができた。



図1 学生による100人村のスライドの表紙

② 台湾とのプロジェクトの開始

羽咋小学校6年生2クラスと台湾の高雄市立新甲国民小学校5年生2クラスをマッチングした。

6月から1ヶ月に1度、羽咋小学校の先生と星稜大学と zoom 上で打ち合わせを行うこととし、進行状況を確認することとした。台湾の新学期は9月からなので、それまでは準備期間として、交流のスケジュールを相談した。9月に入ると子供同士の交流がスタート。日本から先に留学生であるクマのぬいぐるみを送り、台湾からもぬいぐるみが送られてきた。留学生は相手国の学校で半年過ごし、その様子を Padlet のサイトで相手校に報告した。

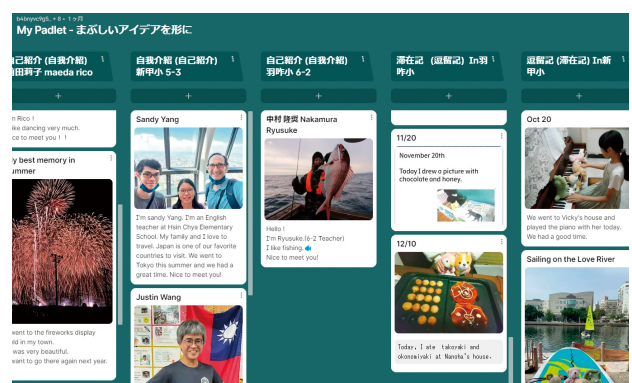


図2 Padletでの交流の様子

Padlet 上には、日々のぬいぐるみの滞在の様子がアップされるので、小学生は自分が相手国に行った気持ちになれるのであった。

③ 第1回 WEB 会議(11月28日)

WEB 会議を実施する前にオンラインのコミュニケーションスキルを高める教材(清水ゼミ4年平本美鈴作)をそれぞれのクラスで見てもらい、聞き方、話し方等必要なオンラインスキルを獲得してもらった後に WEB 会議を実施した。



図3 オンライン学習用教材

11月28日に、2クラス別々に WEB 会議を実施。学生は zoom 上で参加し、録画などの支援を行った。

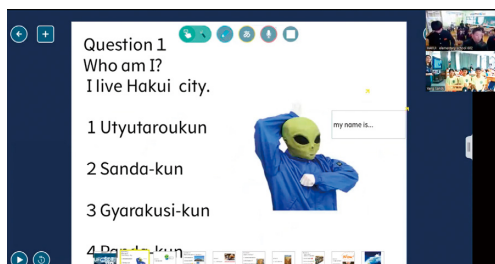


図4 羽咋小側 サンダース君のクイズ

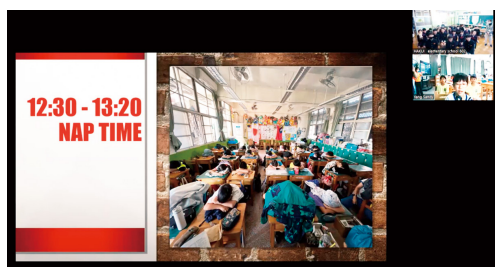


図5 新甲小側 お昼寝タイムの紹介

WEB 会議は、各校の自己紹介の後、学校紹介や地域紹介を英語で行った。最後に質問タイムをとり、好きなマンガでは日本のドラえもんなどが共通話題として出て盛り上がった。どちらの学校も反応がよく WEB 会議を楽しんでいた。

④ 台湾新甲小学校への訪問(12月26日ー1月2日)

これまで交流を支援してきた清水ゼミの大学生3、4年生が交流先の台湾の小学校へ訪問し、日本の子供たちからのプレゼントを渡し、子どもたちの思いを伝えた。また、折り紙で兜の折り方なども教えた。



図6 新甲小へ羽咋小からのプレゼントの贈呈

⑤ 羽咋小学校での台湾報告

2月13日には、羽咋小学校を訪問して台湾報告をおこない、台湾で作成した360動画の教材を VR ゴーグルで小学生に視聴してもらった。



図7 101ビルのカウントダウン花火動画教材

まとめ

今回、台湾の動画教材を360度カメラで作成することができた。ICT の活用としての VR ゴーグルは学校現場ではまだ普及していないが、実際に行けない外国などの様子を臨場感をもって、体験できるツールとしては有効であると考えます。このようなツールを使いつつ、今後も大学生が関与する形で、日本の小学生と外国の小学生との国際協働学習の支援を行っていきたいと考える。